

## 講評

茅野市の一大イベント「八ヶ岳JOMONライフフェスティバル」の関連事業として2017年公募展「縄文のうつわ展」を開催する運びとなりました。茅野市は全国でも有数の縄文王国として、土・木・水・炎など「うつわ」とは密接な関係があり、独自の美意識をもち縄文文化を築いたと思います。このたび縄文の湧き上がる想いを馳せた「縄文のうつわ展」を企画し公募したところ、県内さまざま地域の工芸作家が創造性あるオリジナルな器を多数ご出品頂きました事に感謝申し上げます。

展覧会に集まった「うつわ」の素材は陶磁器・漆・木に限らせて頂きました。素材と技術、表現の仕方など、どの作品も完成度が高く、器としての機能・文様・美しさ・色彩等々、芸術性豊かな作品でした。また表現者としてアグレッシブ（積極的）な姿勢で挑戦したり、主張が作品の中から語りかける作品など多くの作品と出会え、将来の展望が明るく見えました。

総出品数23点で明日の工芸美術を見据えた審査を心掛け、厳選な審査を行いました。伝統的形式な器・クラフト的な器・斬新なフォルム・現代感覚の器・抽象的な作品等々、現代に新風を吹き込む自由な発想の作品が多々ありました。受賞作品選出には大変時間がかかりました。又、若い方々の出品も多数あり頼もしさを感じました。

審査員長 伊藤 彰敏

審査日 2017年9月18日（月・祝）

審査員 伊藤彰敏（陶芸作家、日展会友、長野県展無鑑査（審））  
島立幸男（漆芸作家、日展会友、茅野市芸術文化協会会長）  
辻野隆之（茅野市美術館長、茅野市民館ディレクター）

## 作品講評

**大賞** 彩何鉢「The Wonderful World」  
篠田弘明（長野県塩尻市旧塩尻）（磁）  
計画的に計算されたデザインで、構成力も際立ち、色彩良く、大自然への祈り、豊かさが表現され大変評価が高い作品です。

**準大賞** 縄文の宴  
村井善晃（長野県長野市吉田）（陶）  
宇宙空間をイメージした幻想的な色彩で、胴に縄文文様を施し、悠久の大地を想わせるおらかな作品です。

**優秀賞** やさしい風  
上田久乃（長野県茅野市湖東）（陶）  
茅野市の縄文の地に住み、縄文土器のエネルギーや造形に心惹かれ製作した作品。縄文の里を渡るやさしい風にロマンが漂う作品です。

**審査員賞** 白釉線刻文鉢  
仙田貞子（長野県長野市篠ノ井）（陶）  
様々な線で内外を線刻で施し、ワクワク感とリズムカルな景色があり、好感がもてた作品です。

**縄文の華**  
田中勝征（長野県塩尻市大門）（漆）  
縄文の華をイメージしたひらめきか。縄文文化に夢をふくらませ、乾漆を駆使し、工夫の努力の跡が見える作品です。

**特別賞** 縄文の風  
田中健雄 ほか永明中3年有志（長野県茅野市塚原）（陶）  
雄大な八ヶ岳、広大な山麓に栄えた縄文文化。縄文の里を渡る風に神秘とロマンがあり、先史の人々のたくましさ、おおらかさを、先生と生徒が合作で作り上げた作品です。

※その他、市川幸一さん（茅野市）、遠山千恵子さん（塩尻市）、矢島美途さん（伊那市出身）らが賞の候補にありました。



## 公募展

# 縄文の うつわ展

JOMONフードスケープ

## 現代的縄文食風景

「縄文のうつわ」  
楽しめます

### 2017年10月8日（日）～22日（日） 茅野市玉川荒神の古民家

太古の縄文から命をつないできた〈食〉。人が集まる暮らしの営みを面影に残す古民家で、縄文からの知恵や技と、現在の食材や調理法とを合わせ、地のものや保存食をつかった収穫祭の料理を、「縄文のうつわ」に盛り合わせた「現代的縄文食」を提案します。また、期間中は古民家で「縄文のうつわ」をご覧ください。

#### 1 現代的縄文食が味わえる荒神の古民家

「縄文のうつわ」に盛った収穫祭の料理「八ヶ岳豊稈プレート」をお楽しみください。

2017年10月8日（日）、9日（月・祝）、15日（日）、22日（日）  
11:30～14:00 ※限定15食・要事前申込み（先着順）

#### 2 社交場になる荒神の古民家

「縄文のうつわ」を展示します。ご自由にお立ち寄りください。

2017年10月8日（日）～22日（日）11:00～18:00

<http://www.chinoshiminkan.jp/jomon/foodscape/>

## お問合せ

茅野市美術館（茅野市民館内）  
長野県茅野市塚原一丁目1番1号  
TEL 0266-82-8222

縄文文化を築いた人々の心の在りようを生かし、その想いを未来に引き継ぎ、世界と手をつなぐ——。縄文の湧き上がる創造力に想いを馳せた「うつわ」作品を展示します。

2017年9月22日（金）～10月2日（月）  
茅野市美術館 常設展示室  
9:00-19:00 観覧無料  
火曜休館

# 大賞



## 1 彩何鉢「The Wonderful World」 (磁)

さいかはち ザ・ワンダフル・ワールド

篠田 弘明 (塩尻市)

大自然と祈り、平等で平和な縄文期の豊かさと神秘を表現しました。

# 準大賞



## 2 縄文の宴 (陶)

村井 善晃 (長野市)

宇宙空間をイメージした釉薬と縄文模様を施し「現代の縄文の器」を表現。

# 優秀賞



## 3 やさしい風 (陶)

上田 久乃 (茅野市)

縄文土器のエネルギーに満ちた造形に惹かれる。厳しい自然だけでなくやさしい風を感じるひと時もあったのではないかと制作した。

# 審査員賞



## 4 白釉線刻文鉢 (陶)

仙田 貴子 (長野市)

様々な線で表面を埋め、ワクワク感じる景色になる様に彫りました。



## 5 縄文の華 (漆)

田中 勝征 (塩尻市)

感性豊かな縄文文化に想いを巡らし乾漆にて製作しました。

# 特別賞



## 6 縄文の風 (陶)

田中 健雄  
ほか永明中3年有志 (茅野市)

皿の文様は全て自然にあるものを用いました。

# 入選



## 7 和・喜・絆 (陶)

市川 幸一 (茅野市)

和気藹藹と喜びに満ち強い絆で結ばれた縄文の里。そんな想いを込めて制作しました。陶器、炭化焼。



## 8 崩壊そして再生 地球号 (陶)

遠山 千恵子 (塩尻市)



## 9 満月とカケラ (陶)

矢島 美途 (伊那市出身)

縄文人の生活を想像し土器片、灯、月を合わせた器を作りました。



## 10 炎のうつわ (陶)

加納 直久 (伊那市)

命を繋ぐ食。生を支える炎。縄文の食のうつわとは、炎そのもの。



## 11 灰釉縄文鉢 (陶)

はいゆうじょうもんはち

川手 敏雄 (飯田市)

荒縄で刻文して制作しました。



## 12 希望のたねの殻 (陶)

こいけちえ (伊那市)

大きくて美味しい果実。種の殻も割って器にしていたかも？



## 13 畏敬 (陶)

河野 史尚 (富士見町)

縄文の人々が神に捧げる思いを想像しながら製作した。諏訪地方で採れる鉄物の多い石を砕いて塗りつけ焼成した。



## 14 昂 (陶)

小林 欣一 (茅野市)

縄文時代の文様美を現代風に生かせるか、古の緑を創造してみました。



## 15 新縄文 (陶)

高橋 由美子 (茅野市)

中ッ原遺跡のある山口区でその気を感じ、暮らす。作品の源。



## 16 縄文の木の葉舟 (菓子鉢) (漆・木)

じょうもんのはなぶね

寺島 義典 (茅野市)

大自然：木の葉舟に出土の線刻絵と勾玉を配い縄文の世界へ君を誘う。



## 17 粉引波紋鉢 (陶)

こひきなみもんばち

本間 友幸 (安曇野市)

縄文人にとって最も重要な要素の1つである「水」をイメージした器です。



## 18 白釉沈縄文大鉢 (陶)

はくゆうちんじょうもんおおぼち

丸山 正行 (長野市)

自然を、土石火を熟知した縄文人。今、白釉を用い高温で焼いた。



## 19 遥かなる時への旅立ち (陶)

三村 貞夫 (岡谷市)

縄文時代への郷愁は遥かなる時を越えて人々の心の中に息づく。



## 20 縄文木の実皿 (木)

じょうもんきのみざら

矢島 行平 (茅野市)

大桑の木を材料に木の実皿を造って見ました。人をもてなす心に念ずる。



## 21 黒釉象嵌大皿 (陶)

くろゆうぞうがんおおさら

吉田 美恵子 (塩尻市)

# 審査員



## 22 陶笥「縄文の贈り物」 (陶)

とうぼこじょうもんのおくりもの

伊藤 彰敏 (茅野市)

先史の計り知れない創生は心の奥底を揺らす。大地の恵み、夢、詩を縄文の贈り物として作品に織り込む。



## 23 拭漆 大鉢 (漆・木)

ふきうるしおおぼち

島立 幸男 (茅野市)

木目を活かした器に拭漆で着色仕上げしている。